

# ミツバチ科学研究施設から・ニュース

## ミツバチ科学研究施設

図書・論文・資料リスト (1997)

### 図書

- 松香光夫 (共著). 花粉媒介昆虫の利用. 昆虫産業 (梅谷献二編). (社) 農林水産技術情報協会. pp. 75-88.
- 岡田一次 (著). ニホンミツバチ誌. 玉川大学出版部. 86 pp.
- 小野正人 (著). スズメバチの科学. 海游社. 174 pp.
- 鷲谷いづみ・鈴木和雄・加藤真・小野正人 (著). マルハナバチ・ハンドブック. 文一総合出版. 49 pp.

### 学術論文・一般記事

- 浅田真一・小野正人. セイヨウオオマルハナバチを取り巻く諸問題の解決に向けて. 保全生態学研究 2 : 105-113.
- Asada, S. and M. Ono. Tomato pollination with Japanese native bumblebees (*Bombus* spp.). 7th Intl. Symp. Pollination (K. W. Richards ed.). Acta Horticult. 437. pp. 289-290.
- Deowanish, S., J. Nakamura, M. Matsuka and K. Kimura. MtDNA variation among subspecies of *Apis cerana* using restriction fragment length polymorphism. Apidologie 27 : 407-413. (1996)
- 松香光夫. ポーレンビーとその利用. 日本花粉学会誌 43 (1): 19-30.
- 松香光夫. ミツバチ女王蜂の分化とローヤルゼリー. 玉川大学学術研究所紀要 3: 117-128.
- Miyataka, H., M. Nishiki, H. Matsumoto, T. Fujimoto, M. Matsuka and T. Satoh. Evaluation of propolis. I. Evaluation of Brazilian and Chinese propolis by enzymatic and physico-chemical methods. Biol. Pharm. Bull. 20 (5): 496-501.
- 中村 純. ミツバチの誘引剤. ミツバチ科学 18 (2): 81-85.
- 中村 純. Apidologie 特集号「アジアのミツバチ」. ミツバチ科学 18 (4): 188-191.
- 中村 純. プロポリスの起源植物. 日本プロポリス協議会会報 15: 44-54.
- 新島恵子. 在来クサカゲロウの増殖. 植物防疫 51 (11): 24-27.
- Nijima, K., W. Abe and M. Matsuka. Development of low-cost and labor-saving artificial diet for mass production of an aphidophagous coccinellid, *Harmonia axyridis* (Pallas) .Bull.

Fac. Agr. Tamagawa Univ. 37: 63-73.

- Ono, M. Ecological implications of introduced *Bombus terrestris*, and significance of domestication of Japanese native bumblebees (*Bombus* spp.). Proc. Intl. Workshop Biol. Invasion Ecosystem Pests and Beneficial Organisms. Nat. Inst. Agro-Environ. Sci., Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries. pp. 244-252.
- 小野正人. マルハナバチと生物多様性. 遺伝 51 (3): 6-7.
- 小野正人. ポリネーターとしてのマルハナバチ—その実態と利用上の将来的展望. 農薬バイオテクノロジー関連技術情報調査報告書. 農薬バイオテクノロジー開発技術研究組合. pp. 26-40.
- 小野正人. 外来生物②セイヨウオオマルハナバチ. SClaS 3: 76-77.
- 佐々木正己. ミツバチにとってのプロポリス—ミツバチはどのようにして微生物や外敵から群れを守っているのか—. 兵庫県養蜂振興会・兵庫県農林水産部畜産課. 28 pp.
- 佐々木正己. ミツバチにおける翅と飛翔筋の多機能化. 比較生理生化学 14 (4): 326-336.
- Takenaka, T. and Y. Takenaka. Royal jelly from *Apis cerana japonica* and *Apis mellifera*. Biosci. Biotech. Biochem. 60 (3): 518-520. (1996)
- 吉田忠晴. 空中の特定な空間で繰り返られるミツバチの配偶方式. 昭和薬科大学薬とその周辺 1: 25-39.
- 吉田忠晴. ニホンミツバチ—生態とその飼育法 I—IV—. ミツバチ科学 18 (1): 1-8, 18 (2): 65-80, 18 (3): 137-148, 18 (4): 165-174.

### 学術・一般発表

(口頭・ポスター発表, 依頼講演)

- 堀浩・佐藤敬久・小野正人・佐々木正己・松香光夫・東岸和明・石山忠之. マルハナバチ属が生産するオリゴ糖. 第19回糖質シンポジウム.
- 松香光夫. 花粉媒介昆虫概説. 平成9年度技術交流セミナー「施設栽培における花粉媒介昆虫の利用をめぐる諸問題」. (社) 農林水産技術情報協会. pp. 1-6.
- 松香光夫. プロポリス研究のこれまでとこれから. プロポリス研究者協会プロポリス学術講演会講演.
- 松香光夫. プロポリスとローヤルゼリーの働き. ウイング健康フォーラム講演.
- 松香光夫. ミツバチにとってローヤルゼリーの意義. 全国ローヤルゼリー公正取引協議会社団法人設立10周年記念講演.

- 松香光夫・兼高秀・佐々木正己・小野正人, マルハナバチの生育に必要な花粉とその成分. 日本花粉学会第38回大会講演要旨, p. 18.
- Nakamura, J., H. Osawa and M. Matsuka. Utilization of propolis sources by honeybees. *Apis mellifera*. 35th Intl. Apic. Congr. p.103.
- 中村 純. ミツバチが創るプロポリスの驚異. プロポリス研究者協会プロポリス学術講演会講演(熊本会場).
- 中村 純. ミツバチの贈り物—ローヤルゼリーとプロポリス. ウイング健康フォーラム講演.
- 新島恵子. 低コスト飼料によるナミテントウの省労力飼育. 第7回天敵利用研究会講演.
- 小野正人. ポリネーター昆虫の管理と利用—特に日本産マルハナバチの室内飼育と花粉媒介能. 日本農作業学会平成9年度春季大会講演.
- 小野正人. マルハナバチの利用をめぐる最近の話題. 玉川大学大学農学部主催第2回理料系教員リフレッシュ研修会講演.
- 小野正人. 生物多様性と生物産業: マルハナバチの場合. 日本計量生物学会主催第5回計量生物セミナー(生物の部)「保全生物学をめぐる最近の話題」講演要旨, pp.1-2.
- 小野正人・佐藤史. エゾオオマルハナバチの室内飼育—その実用化にむけて—(予報). 日本動物行動学会第16回大会発表要旨, p. 18.
- 小野正人・浅田真一. セイヨウオオマルハナバチの侵入が在来マルハナバチに及ぼす影響. 「セイヨウオオマルハナバチの帰化問題を考える」パネルディスカッション講演.
- 小野正人・佐藤多恵. ニホンミツバチの弱みについで込みポリネーターとして利用するトウヨウラン. 第44回日本生態学会大会, p. 3.
- 小野正人. 国産マルハナバチ類の利用の展望. 平成9年度技術情報交流セミナー「施設栽培における花粉媒介昆虫の利用をめぐる諸問題. (社)農林水産技術情報協会, pp. 15-21.
- 佐々木正己. 光の中で生きる. ワタリウム美術館講演.
- 佐々木正己. ミツバチの社会性機構における制御. 材料塑性学会特別講演.
- 吉田忠晴. ミツバチの飼養衛生管理及びハチミツの特性について. 沖縄県農林水産部畜産課養ほう振興推進講演会.
- 吉田忠晴. ミツバチの交尾行動と病虫害対策. 群馬県養蜂協会養蜂研修会講演.
- 吉田忠晴・橘高芳美. ニホンミツバチ蜂群に導入したミツバチヘギイタダニの繁殖. 日本動物行動学会第16回大会発表要旨, p. 18.
- 第41回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨  
浅田真一・小野正人. 日本産マルハナバチの実用化に向けてⅢ—コロニーサイズと新女王蜂生産性について—, p. 8.
- 市川直子・佐々木正己・小畑博美知・最上愿治. ダンスから解析した東京都心におけるミツバチの採餌エリア, p. 170.
- 伊藤充・小野正人. 導入種セイヨウオオマルハナバチが日本在来種マルハナバチに与える影響, p. 162.
- 木村 澄・天野和宏・芳山三喜雄・松香光夫・中村純・S. Deowanish. ニホンミツバチ (*Apis cerana japonica*) の亜種内変異についてⅢ. ミトコンドリアDNA CO-II-tRNA<sup>Leu</sup>間の塩基配列の解析, p. 202.
- 光畑雅宏・小野正人. マルハナバチの生殖個体生産メカニズムについて—オオマルハナバチにおけるコロニーモード変換モデルI—, p. 175.
- 門田憲明・佐々木正己. セイヨウオオマルハナバチの雄の概日活動リズム, p. 177.
- 新島恵子・植木久美子・深澤牧子. アブラムシ寄生蜂, *Aphidius colemani* の寄生生態, p. 22.
- 小野正人・光畑雅宏・鈴木優子・鷲谷いづみ. エゾトラマルハナバチの室内増殖法の検討—絶滅危惧植物サクラソウのポリネーターセラピー—, p. 177.
- 笹川浩美・松山茂・山岡亮平・佐々木正己. キンリョウヘンラン(金陵辺蘭)の花の香りとニホンミツバチの情報化学物質(Ⅲ), p. 87.
- 佐藤敬久・小野正人・佐々木正己・松香光夫・堀浩. マルハナバチ蜂蜜の特性と生成過程, p. 116.
- Deowanish, S.・中村純・松香光夫・木村澄. トウヨウミツバチのミトコンドリアDNA多型, p. 202.
- 鈴木優子・小野正人. 日本産マルハナバチの周年飼育法に関する研究, p. 9.
- 吉田忠晴・小原慎司・佐々木正己. 巣箱内光周処理によるミツバチの交尾飛行時刻の制御, p. 176.

#### テレビ・ラジオ出演

- NHK 総合テレビ. 「おはよう日本」帰化バチで生態系に影響, 2月13日放映. 出演: 小野正人.
- SBS 静岡放送. 「うわさのワイド」ミツバチの生態, 2月18日放送. 出演: 吉田忠晴.
- TBSテレビ. 「はなまるマーケット」蜂蜜, 3月17日放映. 出演: 松香光夫.
- NHK 総合テレビ. 「おはよう日本」都市で増えるスズメバチ, 5月16日放映. 出演: 小野正人.
- NHK 総合テレビ. 「ハイビジョンでこんにちわ」スズメバチの発生と天候, 6月10日放映. 出演: 小野正人.
- NHK 教育テレビ. 「しぜんとあそぼう」みつばち, 6月19日放映. 出演: 吉田忠晴.

NHK 総合テレビ、「クイズ日本人の質問」ミツバチの扇風行動，5月25日放映。出演：吉田忠晴。

NHK 総合テレビ、「生活はっとモーニング」都会の毒虫，7月4日放映。出演：小野正人。

TBS テレビ、「花まるマーケット」夏は危険！ハチから身を守る方法，8月14日放映。出演：小野正人。

TBS テレビ、「ニュースの森」スズメバチ撃退作戦，8月27日放映。出演：小野正人。

フジテレビ、「おはよう！ナイスデイ」ご用心！この秋スズメバチ大量発生か，8月29日放映。出演：小野正人。

NHK ラジオ第一放送、「ふれあいラジオパーティー」夏バテ撃退！ミツバチ・パワー，9月1，2日放送。出演：吉田忠晴。

日本テレビ、「ニュースプラス1」特集・決死の密着！スズメバチ退治，9月11日放映。出演：小野正人。

日本テレビ、「The・サンデー」スズメバチが小学生を襲う，10月5日放映。出演：小野正人。

日本テレビ、「衝撃映像信ジラレナイ99連発」殺人スズメバチ・死からの脱出法，10月21日。出演：小野正人。

NHK 総合テレビ、「ニュース11」スズメバチ被害，10月30日放映。出演：小野正人。

日本テレビ、「スーパーテレビ情報最前線」緊急特集！スズメバチの大襲撃，11月3日放映。出演：小野正人。

#### 新聞掲載

北海道新聞・1月27日。欧州バチが道内で繁殖，玉川大グループ調査。掲載：小野正人。

東京新聞・3月21日。ハウス栽培の授粉用に輸入，セイヨウオオマルハナバチで大論争。掲載：小野正人。

北海道新聞・3月28日。道内で繁殖 欧州バチ在来種との雑種誕生。掲載：小野正人。

日本経済新聞・4月20日。生態系乱す？輸入昆虫。掲載：小野正人。

日経産業新聞・5月5日。授粉バチなどの農業用昆虫，在来種利用へ技術開発相次ぐ。掲載：小野正人。

朝日新聞・5月11日。スズメバチ大量発生予想「都会生活」にも適応。掲載：小野正人。

北海道新聞・6月4日。欧州バチ 在来種駆逐の恐れ 受粉用に輸入 道内で繁殖。掲載：小野正人。

毎日新聞・7月22日（PRのページ）。ローヤルゼリー人気の秘密は？。掲載：松香光夫。

朝日新聞・7月28日（広告特集）。ローヤルゼリーとプロポリス。掲載：松香光夫。

東京新聞・8月15日。新宿区の公園にミツバチの巣。掲載：吉田忠晴。

日本経済新聞・10月21日。スズメバチ大暴れの季節。掲載：小野正人。

## ミツバチの切手

昨年11月に通常切手としては国内ではじめてミツバチの切手が発行された。20円切手で、絵柄はレンゲの花上のニホンミツバチとなっている。

## 海外研究者の来訪

国際社会性昆虫学会2002年大会の本邦開催候補地が札幌市（北大）に決まり、本格的な誘致活動がはじめられた。これに関して昨年11月にはミツバチの巣仲間認識の研究などで著名な、学会事務局長のM. Breed博士（アメリカ・コロラド大）が来日，玉川大学にも立ち寄られた。



図1 佐々木教授と観察巣箱をみる Breed 博士

1月13日（火）に，来日中のM.J. Douchateau博士（オランダ・ユトレヒト大学）を招いて，マルハナバチ研究に関する特別セミナーが玉川大学農学部で開催された。



図2 ミツバチ科学研究会にも参加いただいた

#### 編集後記

ローヤルゼリー特集へは，全国ローヤルゼリー公正取引協議会のご理解をいただいで，昨年の同協議会社団法人設立10周年記念式典での講演者から記事を集めることができた。

切手は図柄をお見せしたかったが白黒ではと思いあきらめた。通常切手なので郵便局で実物を入手してどんどん使って欲しい。（純）